

災害情報研究会の活動

2015年7月24日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)
災害情報研究会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

活動頻度、メンバー

活動頻度

15年度で
10年目

2006年度から計96回実施、毎月1回開催（8月はお休み）

災害情報研究会メンバー

（2015年7月現在：23名、順不同）

	氏名	会社名	氏名	会社名
座長	市川 啓一	(株)レスキューナウ危機管理研究所		
副座長	橋元 正美	清水建設(株)	前田 良二	富士火災海上保険(株)
副座長	高橋 克彦	インフォコム(株)	高木 雄司	(株)富士通エフサス
	野田 浩二	アジア航測(株)	新免 國夫	岡山県
	東根 聡	(株)建設環境研究所	武多 信幸	ヤマハ株式会社
	副島 紀代	(株)大林組	富田 邦裕	(株)建設環境研究所
	若林 亮	(株)イー・アール・エス	松岡 晶子	富士通エフ・アイ・ピー(株)
	大島 啓一	(株)富士通マーケティング	前 敏文	個人
	三島 和子	(株)インターリスク総研	梅田 浩史	リスクマネジメントオフィス梅田
	南部 世紀夫	清水建設(株)	赤堀 三代治	ARMS
	西濱 靖雄	西濱防災ネット技術事務所	國貞 至	(株)リッジ
	上倉 秀之	(株)セノン	海老澤 聡	(株)湘南スタイル工房

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

活動風景



(BCAO日本橋オフィスにて)

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

研究内容のご紹介

研究テーマ

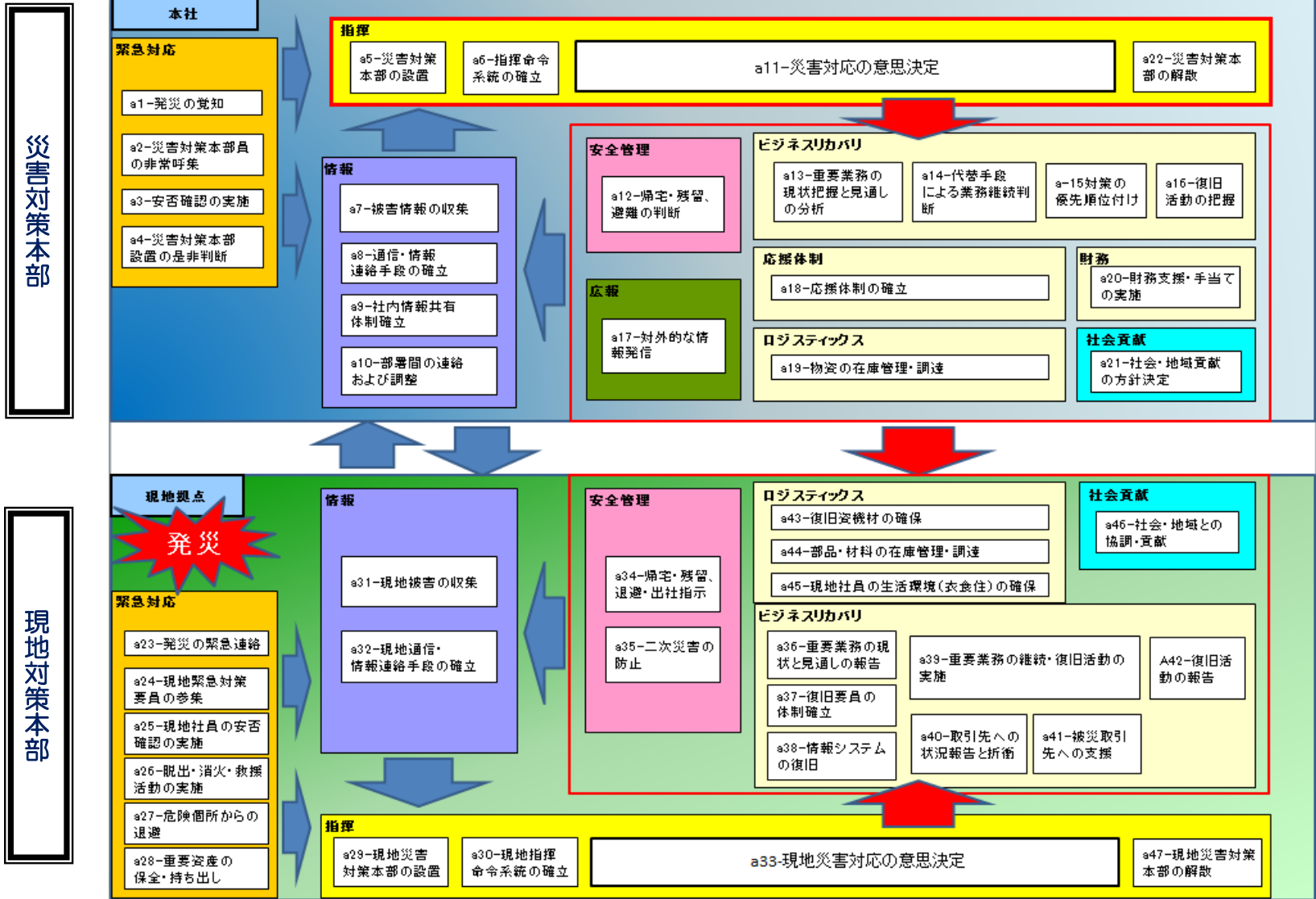
災害時の情報シミュレーションを行う

研究概要

- ① 災害発生直後の初動対応や復旧活動を迅速・的確に行うために必要なアクションと情報項目を抽出
- ② 情報をどこからどのように入手するかを整理
- ③ 各アクション別に情報の流れをフロー図にして見える化
- ④ フロー図を汎用性のあるアクションカードに整理

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

検討① 災害対応フロー図のまとめ



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

検討② インプット／アウトプット情報の整理

アクションの実行に必要な情報（インプット情報）と、実行した結果発信される情報（アウトプット情報）を抽出

(例) a1、a2、a3

アクション	インプット	アウトプット
a1-発災の覚知	i1-地震の規模・地域（マグニチュード・震源・震度・到達時間）	i4-規定以上の地震情報（地域・震度）
	i2-発災直後の発生事象	
	i3-緊急対応基準	
a2-災害対策本部員の非常呼集	i4-規定以上の地震情報（地域・震度）	i4-規定以上の地震情報（地域・震度） +（非常呼集要請）
	i5-非常呼集対象者名簿	i7-参集状況（集合・呼集回答等）
	i6-非常呼集実施基準	
a3-安否確認の実施 （家族を含む）	i4-規定以上の地震情報（地域・震度）	i4-規定以上の地震情報（地域・震度） +（安否確認）
	i8-安否確認実施基準	i10-安否確認回答（個人）
	i9-社員名簿	i11-安否確認集計結果
	i10-安否確認回答（個人）	

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

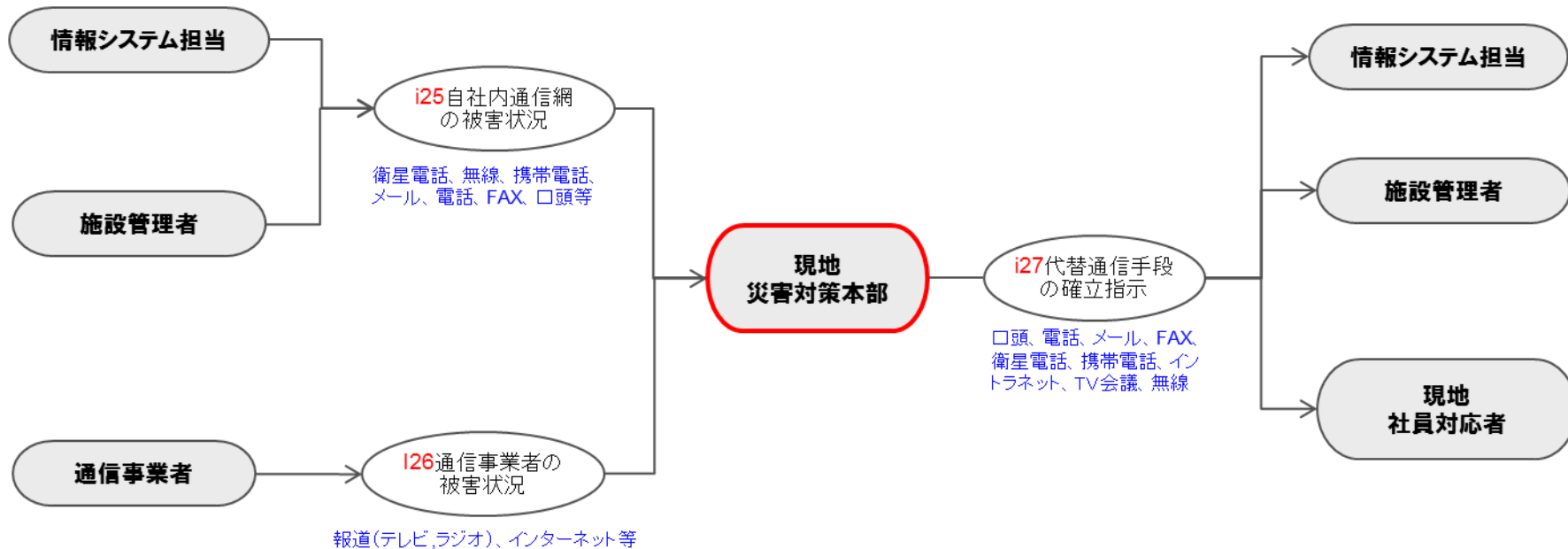
検討③ アクション項目別フロー図の作成

情報の流れをフロー図にして見える化

(例) a33：現地通信・情報連絡手段の確立

a33. 現地通信・情報連絡手段の確立

現地災害対策本部は、自社内通信網、並びに通信事業者の被害状況を把握し、現地における通信・情報連絡手段を確立する。

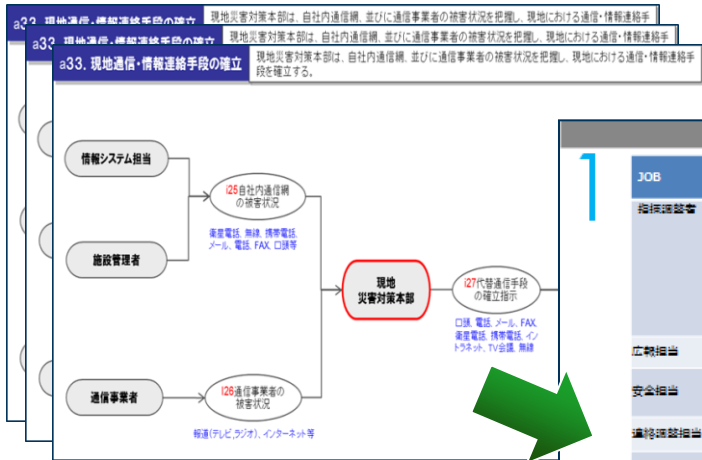


※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

検討④ アクションカードの作成

アクション項目別フロー図を汎用性のある「BCPアクションカード」として展開可能な形へ

(フロー図)



(企業での実用化)

BCP発動後の体制 (災害対策本部)

JOB	担当部門	アクション番号
指揮連絡担当者	指揮連絡担当者	A-4 災害対策本部設置の是非判断 A-5 災害対策本部の設置 A-6 指揮命令系統の確立 A-12, A-34 優先、強弱、避難の判断 A-21 社会、地域貢献の方針決定 A-22 災害対策本部の解散 A-29 現地災害対策本部(東京)の設置 BCPの発動から対策本部の解散までの指揮を行う。 A-48 現地災害対策本部(東京)の解散
広報担当	広報IR室	A-17 対外的な情報発信
安全担当	CSR・リスク	A-1 防災の周知 A-2 災害対策本部員の非常呼集 A-3 安全確認の実施(要領を書く)
連絡連絡担当者	経営企画室	
事業応援部門	総務室	
情報制作部門	IT企業室	A-7被害情報の収集 A-9情報共有体制の確立 A-10緊急時の連絡および確認
奥援管理部門	総務室	A-13重要業務の現状把握と関連した会社インフラの状況を大致的に
業務対策部門	財務経理部	A-8 通信・情報連絡手段の確立 A-19物資の在庫管理、調達 A-20耐震支援、手当ての実施

(汎用化)

アクションカード No. A-2

アクションカード No. A-1

緊急項目 地震の感知 責任者 緊急対応要員

地震の発生を緊急対応要員が迅速に感知し、規定以上の地震かを判断し、緊急対応チームを招集する。

チェック	No	目標時間	アクション手順	担当者	アクションに必要な情報の入手・伝達方法
<input type="checkbox"/>	1	3分	気象庁(地震情報配信会社)から地震の規模・地域・マグニチュード・震源・震度・到達時間等入手確認する。		報道(TV、ラジオ)、インターネット
<input type="checkbox"/>	2		現地社員対応者から発災直後の発生事象を確認する。		メール、携帯電話、無線、衛星電話、電話、FAX等
<input type="checkbox"/>	3		規定以上の地震かを判断し、緊急対応チームを招集する		災害対策マニュアル等の招集基準

BCPアクションカード

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

2014年度実施内容（情報提供①）

史上最大のICS「ノルマンディー上陸作戦」

- ◆第2次世界大戦ノルマンディー上陸作戦で、英軍、米軍でICSが行われた
- ◆日本のICSは、警察、消防、自衛隊での実績があるものの、馴染みにくい（国・組織・言語・文化を超えた協同に有効）



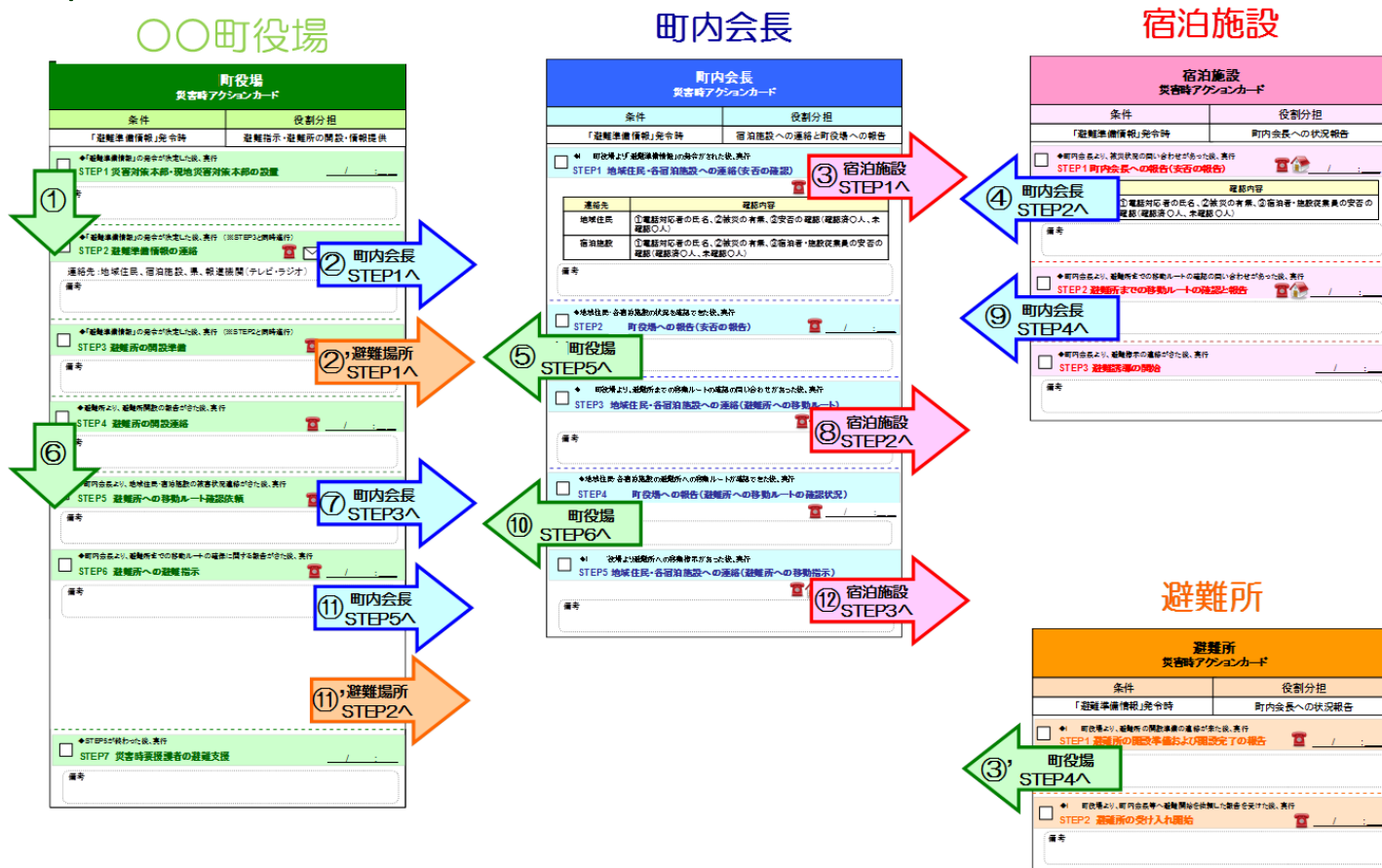
（資料抜粋）

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

2014年度実施内容（情報提供②）

災害時アクションカード

◆ 某町の災害時（土砂災害想定）の行動手順を分かりやすく記した“災害時アクションカード”



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2015年度活動計画①

「BCPアクションカード」の完成

(例) A-1：地震の覚知

アクションカード No. A-1					
項目		地震の覚知		責任者	
地震の発生を緊急対応要員が迅速に覚知し、規定以上の地震かを判断する。					
チェック	No	目標時間	アクション手順	担当者	アクションに必要な情報の入手・伝達
<input type="checkbox"/>	1	3分	気象庁（地震情報配信会社）から地震の規模・地域・マグニチュード・震源・震度・到達時間等を入手確認する。		報道（TV、ラジオ）、
<input type="checkbox"/>	2		現地社員対応者から発災直後の発生事象を確認する。		メール、携帯電話、FAX等
<input type="checkbox"/>	3		規定以上の地震かを判断し、緊急対応チームを招集する		災害対策マニュアル等の招集基準
<input type="checkbox"/>					
<input type="checkbox"/>					
<input type="checkbox"/>					

完成目指して合宿!?



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2015年度活動計画②

11月に名古屋大学減災館への見学会を実施予定



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。